

**【木南社長より 労使協議会コメント】**

2022年12月の賞与支給水準に関して合意していただき有難うございました。

構造改革が進み、2021年度下期に続き従業員全員の奮闘と、組合の皆さま方が従業員の皆さまと様々なコミュニケーションをとっていただいたおかげで2022年度上期もひと月、黒字予算を達成する事が出来ました。しかし、予算に未達及び5百万円弱の営業損失計上となったため、支給水準1ヶ月に届かない平均0.8ヶ月の支給となった事は経営としても非常に重く受けとめております。

下期に入り足元では百貨店の売上が復調すると並行して当社の業績も堅調に推移し、さらにインバウンド需要も着実に回復してきています。

下期は営業利益予算3百万円を必達するために、経営として従業員の皆さまの不安を取り除き、業務に集中していただくべく様々な手を打ってまいります。

そして中期的に「少ない人数で(賞与)原資を大きく分ける」という事の実現を目指していきたいと考えています。

ぜひその実現のためにも組合の皆様にも今まで以上のご支援をいただきたく引き続きよろしくお願い申し上げます。

**【磯原委員長より 労使協議会コメント】**

今回のメンバーズ VOICE では、今後の会社業績が安定的に利益を取っていけるためには、まずは従業員が働く環境を整備して頂きたいという声が大勢を占めました。

特に加工場では、要員不足感が強く、日々の業務に追われている状況であり、チームリーダーの負荷が大きいことへの疲弊感や今後の企業業績への不安を訴える場面が見受けられました。

具体的には、

**「現場に足を運んで状況を確認して頂きたい」**

**「現場の要員と作業量を確認して、コントロールする機能や人を明確にして欲しい」**

**「技術向上に向けた研修は定期的に行って欲しい」**等、

現場目線・現場密着の取り組みを進めて欲しいという声を多く頂いています。組合としては、今回の声を労使間で共有化するとともに、会社の具体的なアクションを求める次第です。